

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 所長

平成 1 9 年度病害虫発生予報第 1 号について  
平成 1 9 年度病害虫発生予報第 1 号を発表したので送付します。

## 平成 1 9 年度病害虫発生予報第 1 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。  
発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	記載ページ
早期水稲	葉いもち イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ	並 並 並	2 2 2
冬春きゅうり (半促成)	べと病 うどんこ病 褐斑病 ミナミキイロアザミウマ	並 並 並 やや多	2 2 3 3
冬春ピーマン	うどんこ病 ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミ類 タバココナジラミ 黒枯病(仮称)	多 多 やや多 前年より多い	3 3 3 3 3
冬春トマト	葉かび病 灰色かび病 タバココナジラミ類 トマト黄化葉巻病(TYLCV)	やや多 多 多 前年と同程度	4 4 4 4
野菜・工芸作物全般	アブラムシ類 ハスモンヨトウ	やや多 やや多	5 5
かんきつ	そうか病 かいよう病 灰色かび病 ミカンハダニ	並 並 やや多	5 5 5 5
果樹共通	カメムシ類		6
茶	炭疽病 カンザワハダニ チャノコカクモンハマキ チャハマキ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ ツマグロアオカスミ クワシロカイガラムシ	やや多 やや多 並 並 やや多 やや多 やや多 多	6 6 6 6 6 7 7 7

については病害虫発生予察注意報を発表。

### 作物の生育状況(4月中旬)

早期水稲は、活着良好で生育は草丈・葉齢ともに平年並で概ね順調であるが、一部の地域では4月上旬の低温により葉先の傷みなどが散見された。冬春きゅうり・冬春ピーマン・冬春トマトは収穫期、かんきつは新梢伸長期、茶は萌芽期～発芽展開期であった。

### 5月の気象予報

天気は数日の周期で変わり、平年に比べて晴れの日が多い、気温は前半は低い、後半は高いと予想されている。また、降水量は平年並、日照時間は平年より多い見込みである。(1か月予報 鹿児島地方 気象台 4 / 20 発表)

## 発生予報の根拠および防除対策

### 早期水稲

#### 1 葉いもち（並）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の稲の草丈・葉令は平年並である。
- 2) 天気は数日の周期で変わると予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 補植用の取り置き苗は、葉いもちが発生しやすく伝染源になるので、補植が終わったら速やかに処分する。
- 2) 曇雨天が続く場合はあらかじめ粒剤を施用するか、または葉いもちの早期発見に努め、病斑が認められたら直ちに粉剤または液剤で防除する。
- 3) 同一系統の薬剤の連用は、薬剤耐性菌が発生しやすいので避ける。

#### 2 イネミズソウムシ（並）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率21.0%（平年48.2%）は平年より少、被害程度2.1（平年5.6）は平年よりやや少であるが、百株当たり成虫数7.0頭（平年4.2頭）は平年よりやや多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 成虫が10株当たり5頭以上のほ場では、粒剤の水面施用を行う。水面施用に当たっては水管理に十分注意し、水深が3cm程度になるように調整し、少なくとも4日間はかけ流しや落水はしない。

#### 3 スクミリンゴガイ（並）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率7.9%（平年13.9%）は平年より少、m<sup>2</sup>当たり貝数0.5頭（平年0.5頭）は平年並である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 水田の入排水口には金網を張り、貝の侵入を防止する。
- 2) 貝の生息数が多い場合は、捕殺するか粒剤の水面施用を行う。
- 3) 粒剤の水面施用に際しては水管理に十分注意し、水深が3cm程度になるように調整し、少なくとも4日間はかけ流し、落水はしない。

### 冬春きゅうり（半促成）

#### 1 べと病（並）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率75.0%（平年67.2%）、発病葉率10.5%（平年13.6%）はいずれも平年並である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) ハウス内の換気を良くし、高温多湿にならないように注意する。
- 2) 肥料切れや成り疲れによる草勢の衰えは発生を助長するので、適切な肥培管理に努める。

#### 2 うどんこ病（並）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率50.0%（平年24.9%）は平年よりやや多、発病葉率3.0%（平年3.8%）は平年並である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 整枝・誘引・老化葉の摘葉等を行い、採光・通風を良くする。
- 2) 耐性菌の発達を避けるため、同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤を輪番で使用する。

### 3 褐斑病 (並)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率25.0%(平成31.5%)、発病葉率3.5%(平成4.3%)はいずれも平成並である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、初期防除を徹底する。
- 2) 窒素質肥料の多用は発病を助長し、過繁茂になって通風を妨げるので適正な肥培管理に努める。

### 4 ミナミキイロアザミウマ (やや多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率25.0%(平成15.8%)は平成並、1葉あたり成虫数0.6頭(平成0.3頭)は平成より多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 収穫の終わった発生ハウスは蒸し込み等により寄生虫を死滅させ、周囲への拡散防止や次期作への発生源を絶つよう努める。

冬春ピ - マン

### 1 うどんこ病 (多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率は100.0%(平成45.6%)、発病葉率21.0%(平成6.2%)はいずれも平成より多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 乾燥した条件で発生しやすいので、乾燥しすぎないように注意する。
- 2) 茎葉が過繁茂にならないように整枝を行い、発病葉は除去する。
- 3) 収穫終了後は、ハウスを密封して病葉上の病原菌を高温で死滅させるか、また、病葉残渣を持ち出して処分し、次期作への伝染源を絶つ。

### 2 ミナミキイロアザミウマ (多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率69.3%(平成33.0%)は平成より多、10花当たり虫数3.3頭(平成1.1頭)は平成よりやや多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤を輪番で使用する。
- 2) 収穫の終わった発生ハウスは蒸し込み等により寄生虫を死滅させ、周囲への拡散防止や次期作への発生源を絶つよう努める。

### 3 ヒラズハナアザミウマ (やや多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率30.8%(平成30.8%)は平成並、10花当たり虫数19.5頭(平成4.8頭)は平成より多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 本虫の薬剤感受性はミナミキイロアザミウマとは異なるので、薬剤の選定には注意する。

### 4 タバココナジラミ類 (タバココナジラミハイオタイブQ) (前年より多い)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率は15.4%(H17年10.0% H18年0.0%)、100葉当たり虫数は0.9頭(H17年0.2頭 H18年0.0頭)である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 気温の上昇とともに発生が多くなるので早期発見に努める。
- 2) 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、低密度のうちに防除する。

### 5 黒枯病(仮称)

[ 防除上の注意 ]

- 1) 葉での発生が少なくても、茎部や果梗部、果実表面で発生がみられることがあるの

で警戒が必要である。

- 2) 高温、多湿条件で発生しやすいので換気等に注意し、早期発見に努める。
- 3) 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、発病を確認したら早めに防除する。

## 冬春トマト

### 1 葉かび病 (やや多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率41.7%( 平年18.9%)、発病葉率10.5%( 平年5.2%)はいずれも平年よりやや多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 多湿条件で発生しやすいので、ハウスの換気を良くする。
- 2) 発病初期の防除を徹底する。

### 2 灰色かび病 (多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率66.7%( 平年24.0%)は平年より多、発病果率3.7%( 平年1.4%)は平年よりやや多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 多湿条件で発生しやすいので、ハウスの換気を良くする。
- 2) 発病初期の防除を徹底する。

### 3 タバココナジラミ類(シルバーリーフコナジラミ、タバココナジラミ バイオタイプQ) (多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率41.6%( 平年6.8%)、100葉当たり虫数10.3頭( 平年1.6頭)はいずれも平年より多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 気温の上昇とともに発生が多くなるので早期発見に努める。
- 2) 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、低密度のうちに防除する。
- 3) 施設栽培では防虫ネットを必ず設置するとともに、光反射マルチや近紫外線カットフィルム、黄色粘着板等の物理的防除手段を利用する。
- 4) シルバーリーフコナジラミとタバココナジラミ バイオタイプQの形態上の差異は成虫、幼虫ともに確認されておらず、両種の肉眼での区別は困難である。
- 5) タバココナジラミ バイオタイプQに効果のある殺虫剤が少ないことから、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行う。
- 6) 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点からも同一薬剤の連用は極力行わず、より一層ローテーション散布を心がける。また、抵抗性発達の可能性が低いポタニガード乳剤等の微生物農薬や粘着くん液剤等のコナジラミを物理的に窒息死させる薬剤を防除体系に組み込む。

### 4 トマト黄化葉巻病(TYLCV) (前年と同程度)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率は33.4%( H18年 23.1%)、発病株率0.5%( H18年 1.2%)である。

[ 防除上の注意 ]

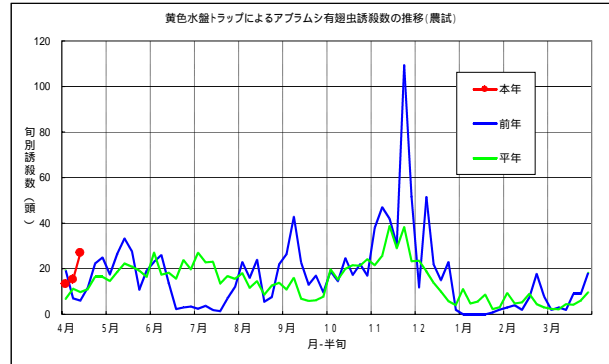
- 1) 黄色粘着トラップ等を設置し、タバココナジラミ類(媒介虫)の早期発見に努めるとともに、栽培期間中を通して防除を徹底し、本虫の密度を抑制する。
- 2) 栽培終了後はタバココナジラミ類を防除後に株を抜き取り、10日間程度施設を密閉して本虫を死滅させた後、残さを処分する。
- 3) ハウスの周辺雑草は休閑期のタバココナジラミ類の生息場所となり、次作への伝染源となるので除草を徹底する。また、ほ場周辺に持ち出したトマト残さ及び野良生えのトマト等には特に注意する。

## 野菜、工芸作物全般

### 1 アブラムシ類 (やや多)

[ 予報の根拠 ]

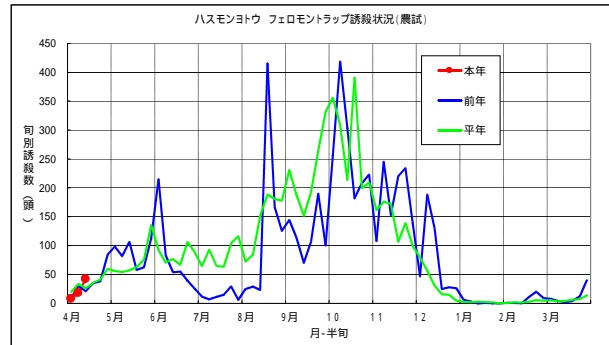
- 1) 黄色水盤トラップによる有翅虫誘殺数 (佐土原町) は、平年よりやや多である。



### 2 ハスモンヨトウ (やや多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) フェロモントラップによる誘殺数 (西都市、都城市) は、平年よりやや多である。



## かんきつ

### 1 そうか病 (並)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 3月中旬の越冬葉調査では、発生が認められなかった。
- 2) 4月中旬の新葉調査では、発生を認めていない。
- 3) 5月の降水量は平年並と予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 防除適期は萌芽期・落弁期・幼果期である。

### 2 かいよう病 (並)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 3月中旬の越冬葉調査(中晩柑類)における発生面積率50.0%(平年30.0%)、発病葉率0.5%(平年0.8%)はいずれも平年並である。
- 2) 4月中旬の新葉調査では、発生を認めていない。
- 3) 5月の降水量は平年並と予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 防除適期は開花直前、落花後、梅雨期、秋芽生育期である。

### 3 灰色かび病

[ 防除上の注意 ]

- 1) 防除適期は落弁期～幼果期である
- 2) 幼果表面に付着した発病花卉から幼果に伝染するので、枝をゆするなどしてできるだけ花卉の離脱を促す。

### 4 ミカンハダニ (やや多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率30.0%(平年27.0%)は平年並、寄生葉率10.1%(平年5.7%)は平年よりやや多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 生息密度が高くなると防除が困難になるので、寄生葉率30%(1葉当たり虫数0.5~1頭)を目安に防除を行う。

## 果樹共通

### 1 カメムシ類

[ 防除上の注意 ]

- 1) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動する。ウメやモモなどの結実中の果樹類では飛来に注意し、初期防除を徹底する。

## 茶

### 1 炭疽病 (やや多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率53.8% ( 平年26.8% ) は平年よりやや多、m<sup>2</sup>当たり病葉(旧葉)数5.7葉( 平年0.6葉)は平年より多である。
- 2) 5月の降水量は平年並と予想されている。

### 2 カンザワハダニ (やや多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率53.8% ( 平年47.1% ) は平年並、寄生葉率10.2% ( 平年6.4% ) は平年よりやや多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ-テ-ション散布を実施する。
- 2) 合ピレ剤の春季使用はリサ-ジェンスが発生しやすいので注意する。

### 3 チャノコカクモンハマキ (並)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の巡回調査では発生を認めていない。

[ 防除上の注意 ]

- 1) フェロモントラップによる誘殺状況では、都城では4月3~4半旬が発蛾最盛期であったと考えられる。
- 2) 顆粒病ウイルスによる防除適期は、第1世代に対しては越冬世代の発蛾最盛期の17日後、第2世代に対しては第1世代の発蛾最盛期の10日後である。
- 3) 本年は防除適期が一番茶の時期と重なり、適期防除が困難であると考えられるので第2世代以降に重点的に防除する。

### 4 チャハマキ (並)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の巡回調査では発生を認めていない。

[ 防除上の注意 ]

- 1) フェロモントラップによる誘殺状況では、都城では4月3~4半旬頃が発蛾最盛期であったと考えられる。
- 2) 本年は防除適期が一番茶の時期と重なり、適期防除が困難であると考えられるので第2世代以降に重点的に防除する。

### 5 チャノミドリヒメヨコバイ (やや多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率7.7% ( 平年2.0% )、百葉当たり虫数0.2頭( 平年0.0頭)は平年より多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 例年、二番茶期から発生が増えてくるので注意する。

## 6 チャノキイロアザミウマ (やや多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率61.5%(平年26.1%)は平年より多、払落虫数1.5頭(平年0.8頭)は平年よりやや多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 例年、二番茶期から発生が増えてくるので注意する。

## 7 ツマグロアオカスミカメ (やや多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率30.8%(平年6.1%)は平年よりやや多、m<sup>2</sup>当たり被害葉数4.0頭(平年0.1頭)は平年より多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 茶以外の植物にも寄生するため、ほ場周りの除草を行う。

## 8 クワシロカイガラムシ (多)

平成19年度病害虫発生予察注意報第1号(H19.4.27発表)参照

[ 予報の根拠 ]

- 1) 4月中旬の発生面積率69.2%(平年20.4%)、寄生株率25.4%(平年7.1%)はいずれも平年より多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 第2世代幼虫の防除適期は幼虫ふ化開始から1週間後、または幼虫ふ化最盛期であるので、ふ化状況をよく観察し防除する。
- 2) 薬剤散布は量を多めに(10a当たり1,000リットル)、枝幹に十分かかるようにいねいに行う。

### その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。

日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>  
農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>  
農林水産消費安全技術センターホームページ  
(旧 農薬検査所) <http://www.acis.famic.go.jp/>

- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。  
特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤(商品名、マリックス乳剤、粒剤等)は使用しないこと。

- 3 発生量(程度)の区分

多	い	(高	い)	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多	い	(やや高	い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並				平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少	ない	(やや低	い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
少	ない	(低	い)	やや少ないの外側10%の度数の入る幅 (平年値は過去10年間の平均)

- 4 予察情報の種類

病害虫防除・肥料検査センターから発表する情報は次の5つです。

- 1) 予報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。
- 2) 注意報・・・主要な病害虫の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
- 3) 警報・・・主要な病害虫の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
- 4) 特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病害虫がある時や、病害虫の発生様相が特異な時に発表する。
- 5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病害虫の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。

**お知らせ** (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病虫害防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を掲載しています。ぜひご利用ください。

**【文書取扱】**

病虫害防除・肥料検査センター 榎間

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499

E-mail: byogaichu-hiryō

@pref.miyazaki.lg.jp